

授業概要

学校化が極めて進展した現代社会において、ほぼ誰もが教育を受けた経験があるという自覚だけは持っている。しかし、自分は学校には行ったがそこで受けた教育は真の教育ではない、などという言説が一定の意味を持つことから分かるように、学校に行きさえすれば教育を受けたことになるわけでもない。では、そのような真の教育を受けることができなかったとと思っている人が、自分の受けた教育を反面教師として教育実践にあたれば真の教育が実現するかといえば、それもまた正しくはない。教育とはかくも厄介な代物なのである。

そこで、教育を職業として行う教員に関するさまざまな問題を講義する。

授業計画

第 1 回	オリエンテーション：授業の方法や進め方
第 2 回	ディスカッション（1）：ビデオ（教師を扱ったドキュメンタリー番組）の鑑賞（1）
第 3 回	教職の意義（1）：人はどこまで教育できるのか（遺伝と環境）
第 4 回	教職の意義（2）：何のために教育するのか（社会化と自己実現）
第 5 回	教員養成の歴史と教師観（1）：戦前の教員養成と聖職的教師観
第 6 回	教員養成の歴史と教師観（2）：戦後の教員養成（1）と労働者的教師観
第 7 回	教員養成の歴史と教師観（3）：戦後の教員養成（2）と専門職的教師観
第 8 回	ディスカッション（2）：ビデオ（教師を扱ったドキュメンタリー番組）の鑑賞（2）
第 9 回	教員の生活（1）：教員の服務
第 10 回	教員の生活（2）：教員の日常業務と「チームとしての学校」
第 11 回	教員のライフコース（1）：養成
第 12 回	教員のライフコース（2）：採用
第 13 回	教員のライフコース（3）：研修
第 14 回	教員のライフコース（4）：指導力不足教員と教員の処分
第 15 回	現代教員養成の諸問題：教員免許状のあり方をめぐる問題
第 16 回	定期試験

到達目標

- ・教職の意義及び教員の役割・職務内容を説明できる。
- ・教職の持つ困難性について理解できる。

履修上の注意

履修者には毎回の授業の前に配布する資料を読み、考えを深めてもらうとともに、毎回小レポートが課される。負担も相当なものになると予想されるが、がんばって乗り切っていただきたい。

予習・復習

- 予習：前回授業時に配布する資料を事前に読み、理解を深める。
- 復習：講義内容を定着させるとともに、適宜示す参考文献にもあたってほしい。

評価方法

毎授業時の小レポート（50%）、定期試験（50%）

テキスト

テキストは指定しない。
適宜資料を配布する。

授業概要

本授業では、教職の意義、教員の役割・能力・職務内容（＝教職観）について講義する。第2～4回では、自身の教職観・理想としての教職観を意識化することによって、自分なりの理想の教職観を形成することを目指し、第5～10回では法的な規則、教員の役割・職務を具体的に学び、自身の教職観について反省的に考察を深めていきたい。第11～15回では、教員として現代の教育諸課題へどのように対応するべきなのかを深めていく。そのため、本授業では、教員による講義だけでなく、学生によるディスカッション・グループワーク、コメントシートの記入などを通じて、主体的な考察を深めていきたい。

授業計画

第1回	ガイダンス：理想の教員とは何かを考える
第2回	教員のライフサイクル：学び続ける教員を目指して
第3回	教職者像の歴史的変遷：教師？教員？
第4回	教職観の歴史的変遷：聖職者論、労働者論、専門職論
第5回	教員の法的身分（1）：服務・身分上の義務
第6回	教員の法的身分（2）：教員の専門性と研修
第7回	教員の法的身分（3）：学校運営と校務分掌
第8回	教員の役割と職務（1）：学習指導——授業の改善
第9回	教員の役割と職務（2）：生徒指導——体罰を考える
第10回	教員の役割と職務（3）：児童虐待と学校・教職員の役割
第11回	チームとしての学校：多様な専門家との連携
第12回	いじめ問題とどう向き合うか
第13回	不登校をどう捉えるか
第14回	教員の職務とは何か：「教育問題」から考える
第15回	まとめ：教員に求められる能力とは？
第16回	筆記試験

到達目標

- ・学校教育における教職・教員の果たす役割・意義を理解できるようになる。
- ・教員の役割と職務について、法的根拠を含めて理解を深めるようになる。
- ・教員が直面している現代的諸課題への対応についての考察を深めるようになる。

履修上の注意

第1回のガイダンス授業の際に、授業方法・評価方法・予習・復習について詳細に説明する。成績評価に関わる内容であるため必ず出席すること。なお、第1回目の授業に出席できない特別な理由がある場合（あった場合）には申し出て、配布資料を必ず受け取ること。

予習復習

予習：授業の最後に次回の授業資料を配付するので、その内容について読んでおくこと。
 復習：毎回の授業で出された課題を確認し、理解できていない場合は授業資料を復習し、さらに学びたい内容があれば授業資料に示した参考文献を読むこと。

評価方法

授業参画度（授業態度・授業中の発言等）＝10%、授業での提出物の内容＝30%、学期末のテスト＝60%。
 履修者の状況によっては、中間テストを行う場合がある。なお、教職に関する科目のため、成績評価は厳しい態度で行う。評価方法の詳細は、第1回のガイダンス授業で説明する。

テキスト

毎回、授業資料を配付する。授業内容についての参考文献は、授業資料で示すので、それを参考にしてもらいたい。